

災害時に起きる性的暴力

予防と対応のためのマニュアル

ハリケーンカトリーナが上陸した当時、またその後起こった性暴力は、このハリケーンに限ったことではありません。しかしながら、この災害がこのマニュアルを作成するきっかけになりました。ルイジアナ州性暴力反対基金（LaFASA）と全米性暴力情報センター（NSVRC）は、性暴力事件の告発にうながされ、自然災害時に性的暴力は増加しやすいという認識のもと、災害時に性被害を防止する対策をそれぞれ考案し始めたのです。NSVRCは、アメリカ疫病管理予防センターの協力でこの問題の研究を始めました。また、LaFASAは、女性に対する暴力を管轄するアメリカ合衆国司法省やルイジアナ子ども基金、ルイジアナ子どものための治安法案から助成金を受け、ハリケーンカトリーナから学んだ災害時の性的暴力予防法や対応法について議論する集会を開きました。これらの組織は目的が共通していることから、そのうち二団体（LaFASA と NSVRC）が協力してこのマニュアルを作成することになりました。

LaFASA と NSVRC は、被災時やその後起こる性暴力の予防と事件への最適な対応法の実施や政策を展開するために、そういった取り組みをしている団体の活動に役立つよう、このマニュアルを作成しました。これは専門家のための実践的な資料として、いろいろな場面で利用できるように作られています。特に、性暴力予防や被害者支援、政策企画・提言、緊急医療や法医学、児童保護、公的衛生、性犯罪者の治療や管理、警察、災害予防、緊急対応で活動する人たちのためですが、それ以外の分野でも対応できるように書かれています。このマニュアル以外の資料も併用しつつ、それぞれの専門分野が、災害時に起こる性暴力の予防やそれへの対応システムを構築し、政策・実施できる包括的な予防策を協力して作り出すことが必要です。

シェルター（避難所）における性暴力を防止するための提案

- シェルター一軒に避難する人数を限定しましょう。そうすれば管理できる範囲に抑えられ、安全性が維持できます。一箇所に2,000人以上収容しないようにしましょう。
- 避難場所には、適切な明かりが照らせるように十分な電気、またはジェネレーターでの充電力を確保しておきましょう。
- 内部・外部ともつながる完全なコミュニケーション回路を避難場所に確保しましょう。そのときに、第一選択肢が作動しない場合でも大丈夫なように、二次回路も確保しておきましょう。避難場所には公共放送システム（PAシステム）を設置しましょう。
- 着替えや各自の衛生管理のためにプライバシーを守れる場所を提供しましょう。
- 避難場所に、安全が確保できないような場所や性暴力が起こりやすそうな場所があればそこだけ立ち入り禁止にしましょう。
- 訓練を受けている当局のスタッフや他の安全管理スタッフを配置しましょう。当局のボランティアを他の地域から呼び寄せたりできるようなシステムを整えましょう。
- 専用回路のテレビカメラや監視機器をシェルターの所々に設置することも考慮しましょう。
- 地域警備や、避難住民がお互いの安全に気を配るようなセクションごとの警備などを実施するように考えましょう。
- 希望者がいれば、眠ったり生活したりする場所を女性用と男性用に分けてみましょう。特別な擁護が必要な人や、被害に遭いやすそうな人が分断されていないように、気をつけましょう。また、ポスターなどの掲示物が、逆に、その人たちの危険性を増すように書かれていないかにも気をつけましょう。
- シェルターの避難住民には門限を課し、消灯時間を決めます。消灯の後は、警備を増加しましょう。

- ・教会やホテルやアリーナ会場などシェルターとなっているところはすべて、避難住民と緊急スタッフとボランティアの完全名簿を作り、また定期的に更新するようにしましょう。
- ・シェルターへ入場するときにすべての避難住民とスタッフをチェックしましょう。
- ・写真付きの身分証明書を発行できるように検討しましょう。また、その証明書は、シェルターを出るときに返却するようにしましょう。
- ・ブレスレットバンドを確認済みのシェルター住民とスタッフに渡すようにし、シェルターへの入退場はこのブレスレットバンドを付けている人だけに限りましょう。
- ・シェルター住民には、シェルター登録と同時にすべての武器（ナイフや銃など）を引き渡してもらうようにしましょう。
- ・シェルター住民とスタッフの人数を定期的に数えましょう。
- ・性暴力加害者として前科のある住民への対応の仕方を検討し決まりを作りましょう。
- ・前科がある人には、そのように報告してもらうようにします。シェルターに滞在している期間中、定期的に警備員のところに向いていってもらうようにしましょう。
- ・シェルターに登録するとき、避難住民の確認のために性暴力加害前科者の名簿も準備しましょう。
- ・前科のある人用に別のシェルターを設けることを検討しましょう。
- ・警備と警察とその他のシェルタースタッフには、避難住民がすぐわかるような身分証明書を発行しましょう。
- ・最初の説明会や訓練や他の必要書類などがいくつかの言語に翻訳されていることを確認しましょう。
- ・読み書きが得意でない人が安全でいられるように、性暴力予防や対応の情報がきちんと伝わっているか確認しましょう。文章だけに頼らないことです。
- ・できれば家族用のシェルターとして、ホテルのスイートの空きを確認しましょう。家族

だけの部屋を与えることによって、子どもの不安を緩和し、親の管理・保護が行き渡りません。

- ・十分な食べ物や飲み水、またある程度静かな時間や適切な睡眠が確保できる空間や、衛生を維持し排泄できるような個室空間などを確保するなど、人間が必要とする基本的な欲求を満たせるように努力しましょう。

- ・子を持つ親は、シェルターにいる間子どもの世話と責任など、どのような役割があるのかということについて支援や指導が受けられるようにしましょう。

- ・ある程度個人の欲求（喫煙、プライバシー、落ち着いた時間など）を満足させるため、親同士で協力して子どもの世話を分担したりしましょう。

- ・遊んでも安全な場所を作りましょう。その遊び場では、監視や警備を増やしましょう。性暴力予防のスタッフに、遊び場を監視するボランティアを選択してもらいましょう。遊び場は、外から人が入れないようなところにしましょう。

- ・シェルター内で安全区域、薬物禁止区域、遊び場、お祈りの場などを作りましょう。

- ・精神衛生や緊急支援、またはカウンセリングが必要な人のために、そのための空間を作りましょう。その場所は、訓練された精神衛生士が24時間従事するようにしましょう。

「被災地における性暴力」～防止と対応のためのマニュアルより抜粋
レイジアナ州反性暴力財団/NSVRC（全米性暴力情報センター）出版
監訳・発行 NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ